

2023（令和5）年8月24日（木）～26日（土） 白馬岳（2932m）

クマさん会では2006年（平成18年）9月に登って以来、実に17年ぶりの白馬岳登山です。

17年前には吉松も参加していて、その時の感動は今も残っています。夏山で日本最大の雪渓（白馬大雪渓）を踏みしめながら登るという贅沢な山行を期待しての計画です。また、日本最大の収容人数（800名）を誇る白馬山荘の宿泊も楽しみです。

初日は白馬岳登山口の猿倉荘（1255m）に宿泊。翌日、大雪渓を経由して白馬山荘（2832m）泊り。3日目早朝に白馬岳（2932m）山頂に立ったのち、小蓮華山、白馬大池、天狗原を経て梅池自然園へ下りてくるコースです。

今回の参加は、中島さんと17年の歳月を経て後期高齢者の仲間入りをした吉松の2人です。

初日：8月24日木曜日 晴れ

レポート担当；吉松

異常な猛暑の新宿を後にして、中央本線「特急あずさ5号」で白馬駅を目指しました。甲府駅までは全席が予約で一杯でしたが、不思議と甲府駅からは一挙に乗客が減ってしまいました。

乗車時間は4時間近くて、結構な長旅でした。



八王子駅に到着した特急あずさ5号

この列車は、既に全席予約で満席となっており、一部デッキに立っての乗客もいた。



11時42分

白馬駅に到着

八方尾根スキー場の一角を眺めることが出来た。



大きな駅舎の白马駅は、人がまばらで閑散としていた。

もっと登山客が多いのではないかと思ったが、予想外であった。

今日泊まる山小屋「猿倉荘」へ向かうバスの発車時刻までは、2時間ほどの時間の余裕があった。
明日以降の昼食や、酒を仕入れにAコープに立ち寄った。



ランチパックと今夕飲むつもりのお酒を購入。酒が多いの少ないのと言いつつも、結局一人2合分をゲット。

ハピア A corp 白馬店



買い物を済ませて、駅前の食堂「藤屋」で昼食



そばが専門のようであったが、我々は特別メニューのつけ麺を発注



生ビールを飲みながら、14時発のアルピコ交通バスを待った。
猿倉行きのバスに乗り込んだ。バスはガラガラだった！



30分ほどで猿倉登山口に建つ「村営猿倉荘（標高1250m）」に到着



収容人数 89人
宿泊費 一人12000円



猿倉荘駐車場には、既に入山している登山者のマイカーが駐車していた。

車の数から左程多く人が登っているようではなかった。

山荘の玄関前には、登山相談所が開設されていたので大雪溪の様子や注意を聞いてみた。それによると・・・

- ・雪溪は雪解けが進んでいて、かなり短くなっている。歩いて10分ほどで渡り切ってしまう。
- ・雪溪上に赤いマークの目印があるので、そのルートに従って歩く。
- ・雪溪下の水の流れが大きいところには絶対に近づかない。
- ・雪溪左右の崖からの落石に十分注意する。

とのことであった。雪溪が小さくなっている理由としては・・・

- ・冬季の降雪量が少なかった。
- ・今夏の猛暑、酷暑続きで雪解けが早く進んだ。

ことなどがあるらしい。

さて、どんな大雪溪が待っていることやら・・・。



やることも無くなったので、駅前スーパーで購入した日本酒をグビグビやることにした。夕食までの時間は十分あったので、一人2カップ購入してきてよかった！！



夕食は17時から
今日の泊り客は、たったの6人だった。



既にアルコールは沢山飲んでいたので、早速夕食を食べることにした。グッ！！



我々にあてがわれた部屋「天狗の間」



天狗の間は8畳間の広い部屋で、のびのびと手足を伸ばして休むことが出来た。

明日の天気も晴れの予報でしたが、午後に入ると雲が増えてくる見込みでした。特に、雨に遭うのだけは避けたかったので、朝食後すぐに出立することにしました。

村宮猿倉荘は地元からの電線が通っていて、発電機ではありませんでした。いつまでも起きていることもできたのですが、早い朝立ちの為に8時位には消灯して寝ることにしました。

さて、楽しい明日の大雪溪はどうなっているのでしょうか・・・。